

<現状・課題に対する解決策と目指す姿>

- 「サステナブル・ツーリズム」の取り組みが、観光地にも市民にも十分に浸透していないという課題を抱えている。
- そこで、観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン」の趣旨を十分に生かして、本事業において、キャンプファンやSDGsへの意識の高い層に対して、サステナブルツーリズムを実現するべく、SDGs観光アプリを構築し、その実証実験を首都圏のキャンプ拠点である相模原市において実施する。
- また、本事業終了後は、SNSや人流などの105種類の観光データ分析を行い意識調査と戦略の再構築を行い、SDGsとサステナブルツーリズムを実現することを目指す。

<本事業の内容>

【ターゲット】 キャンプファンやSDGsへの意識の高い層

【事業計画(スケジュール)】: 7月リリース

【開発・活用する技術・サービス】: PWAアプリ開発、LINE公式アカウント、専用サイト、アプリに埋め込む動画作成、SNSや検索データを含む105種類の観光データ分析技術。

【実証実験内容】:

- ・SDGs観光アプリをダウンロード不要のPWAで開発
- ・観光CRM付のLINE公式アカウントに上記アプリをLINEログイン技術で連結
- ・観光庁「サステナブル・ツーリズム」に関するSNSでの情報発信とデータ解析

【本事業におけるKGIとKPI 効果検証手法】:

- ・アプリの利用人数と連結している観光専用CRMを検証する。
- ・SNSや検索データを含む105種類の観光データ分析技術を活用して、キャンプとSDGsに関する意識を調査する。



<構築する観光地経営の改善につながるモデル>

【構築するモデル】:

キャンプシーンや通常の観光において、SDGs観光アプリを活用することにより、サステナブルツーリズムを実現し、市民の意識を変革する。

【他地域等との差別化や競争上の優位性を確保する方法】:

観光分野では活用実績のないSDGsに特化したPWAアプリと観光CRMシステムの連結を実現することにより、キャンプファン等に対して、観光庁サステナブルツーリズムの意識を浸透させる。

<DXにより実現したい姿とそのための中長期的なロードマップ>

今季は、相模原市でのキャンプ利用者の5割と一般的な観光旅行者の1割がSDGs観光4アプリを利用し、相模原市が掲げるSDGsに基づく街づくりとサステナブルツーリズムの新たな軸となることを目指す。

数年後には、相模原市以外にも、全国の自治体にサステナブルツーリズムを広げていく。